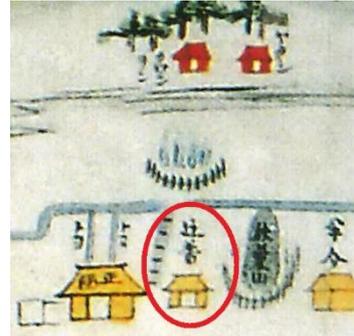


# 肘歷通信 第十五號

## 「肘折駐在所」のこと

肘折保育所の隣で地区を見守る駐在所。  
最も古い記録は、江戸時代の肘折温泉の地図  
に描かれている「辻番所」です。

(「辻番」は武家屋敷に設置されるので、正しくは「自身番」だったと思われます。)

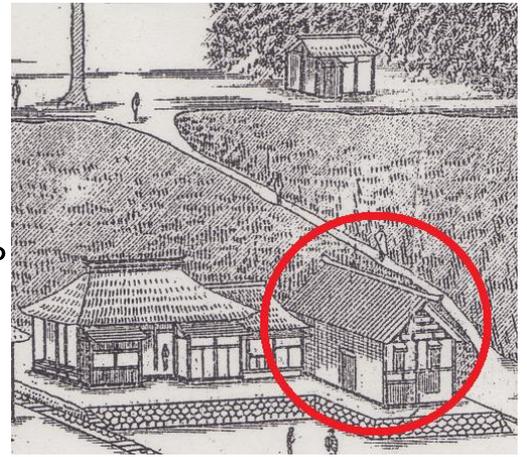


上の湯と秋葉山の石碑の間にあり、  
江戸時代の番所には、突棒・刺又・袖絡の他にも、消防の纏や鳶口、半鐘、火の見梯子などが常備されていたので、  
今の肘折消防団本部もその名残の一つと云えるでしょう。

**明治 21 年**に**県警巡查詰所**が設置されるまでは、  
この番所が肘折の警備を務め、明治 12 年に当番であった  
齊藤佐次兵衛が、鳴子からやってきた犯罪者を肘折で捕縛  
し、新庄警察署巡查に引き渡した記録もあります。

**明治 28 年**、当時の地区総代 三原兵吉(佐左エ門)の下で、  
**巡查駐在所の新築**が決まり、総工費 118 円 23 銭(現在の  
250 万円弱)で、現在の湯守小屋(木村屋旅館隣)の場所に  
駐在所が新築されました。

この頃、肘折小学校が薬師神社の隣にあり、駐在所と上の豆腐屋の間から、学校への通学路がありました。通学する子供たちを見守っていたのでしょ



明治30年の絵図

**昭和33年**、同じ位置に駐在所が再度新築されます。



明治末の写真。山手への階段がある

そして、**昭和53年**11月、肘折小中学校が神明神社の山の上に移転すると、翌12月には駐在所も学校の坂下へと移転。



学校の坂下にあった肘折駐在所



昭和33年、新築時の写真



現在の肘折駐在所

平成30年には、肘折保育所前に移転し、現在に至ります。

肘折の子供たちの安全を見守り続けて、2021年で133年です。

肘折歴史研究会